

小中一貫教育校 大泉桜学園の取組

施設一体型小中一貫教育校 大泉桜学園では、1年生から9年生までの9年間を見通した教育を行っています。

発達段階に応じて、1～4年生をⅠ期、5～7年生をⅡ期、8・9年生をⅢ期としています。5・6年生は、7～9年生と同じ西校舎で50分授業を受けたり、社会や理科等で教科担任制による授業を受けたりするなど、指導体制を工夫しています。また、4年生がⅠ期のリーダーとして縦割り遠足や委員会活動で活躍



入学式の様子(1年と7年生)

しています。さらに、学校行事を通じた異学年交流を充実させています。入学式は1・7年生合同で、卒業式は6・9年生合同で行っています。部活動や児童生徒会活動には、5～9年生が一緒に取り組んでいます。運動会や桜祭(音楽会)などの行事は、9学年合同で行っています。

平成29・30年度練馬区小中一貫教育研究校の指定を受け、新学習指導要領における小中一貫教育の取り組みについて研究を深めています。研究発表は平成30年11月を予定しています。



全児童生徒が参加する対面式

小中一貫教育に取り組む小中学校のグループ

練馬区では、中学校1校と近隣の小学校1～3校で小中一貫実践グループをつくり、子供たちの交流や学習上の連携等を進めています。

このグループごとの研究は、平成23年度に10グループの中学校区から始めました。段階的に研究グループの指定を拡大し、2年間の研究期間終了後は、実践校として取組を継続していま



小学生による中学校授業見学

す。平成29年度には、小中一貫教育校を除く全ての小中学校が小中一貫教育実践校となりました。

今後は各グループにおいて、連続性・系統性のある教育内容や教育方法の充実に関する研究を引き続き行っていきます。



小中合同留学生交流会

ねりまの 小中一貫教育



学力・体力
の向上

豊かな人間性・
社会性の育成

安定した
学校生活

ねりまの小中一貫教育は「授業改善による学力・体力の向上」「連携指導による豊かな人間性・社会性の育成」「滑らかな接続による安定した学校生活」の三つを通して、学習意欲の向上や自己肯定感の高まり、不登校の減少を目指しています。

小中一貫教育校および全ての小学校や中学校が、9年間を見通した小中一貫教育に取り組むことで、子供たちの力を高めていきます。

練馬区教育委員会

平成29年度の小中一貫教育の取組

合同授業



小中学生が同じ班で話し合いながら学習しました。

乗り入れ授業



小学生が中学校教員から授業を受けました。

リトルティーチャー



授業や補習で、中学生が小学生の学習を補助しました。

読み聞かせ



中学生が小学生に本の読み聞かせをしました。

児童会・生徒会交流



生徒会役員が、小学生に学校紹介を行いました。

あいさつ運動



中学生が小学生に朝の挨拶を呼びかけました。

行事への参加



中学校の運動会に小学生が参加しました。

部活動体験



小学生が中学校の部活動を体験しました。

連携教室



中学校に設置した連携教室や特別教室で、小学生が一日生活しました。

作品の交流



中学生の作品展示を小学生が見学しました。

特別支援学級の交流



小中学校の特別支援学級が合同授業を行いました。

小小連携



同じ中学校区の小学校2校の6年生が合同合唱を行いました。

Q1 小中一貫教育を実践している小学校に入学すると、連携先の中学校に進学しなければならないのですか。

A1 通学区域の指定や学校選択制の利用により、連携先以外の中学校に進学することもできます。

Q2 小学校と中学校の学区が異なる地域が多い練馬区で小中一貫教育はできるのですか。

A2 区内全ての小学校と中学校では、小中一貫教育の取組として、9年間を見通した学習指導の在り方について研究しています。練馬区の小中一貫教育では、文部科学省で定められた学習内容を分かりやすく指導することを大切に考え、学習のつまずきの解消を図っています。

Q3 一つの小学校からいろいろな中学校へ進学する状況で、どのように小中一貫教育に取り組むのですか。

A3 小中一貫教育を進めるために、中学校1校と近隣の小学校1~3校で研究グループをつくり、平成28年度までに全中学校区で2年間の研究に取り組んできました。3年目以降は小中一貫教育実践校として取組を継続しています。9年間を見通した視点でカリキュラムを作成したり、小学生と中学生が交流したりして、どの小学校からどの中学校へ進学しても安定した学校生活を送れるよう、小中学校の接続に配慮した教育活動を実践しています。また、知的障害特別支援学級では、設置校である小学校と中学校を四つのブロックに分けて、研究や実践を進めています。

Q4 同じ中学校へ進学するのに、同じ実践グループの小学校から進学する子供とそうでない小学校から進学する子供がいると、学習状況に差が生じてしまうのではないですか。

A4 各小学校の状況に応じた取組が行われますが、学習指導要領に準拠して小中一貫教育を進めますので、学習内容や進度に差は生じません。

平成30年度以降のねりまの小中一貫教育は、中学校区を基盤として、9年間を見通して、これまでの成果の継続と充実に努めていきます。